

粉碎できない薬について

今回は粉碎できない薬についてです。嚥下機能が低下している場合、錠剤を粉碎し服用することがあります。しかし、錠剤の中には粉碎できないもの、注意が必要なものがあります。

粉碎で生じる問題点

◆ 薬効の低下

粉碎したことにより安定性が低下し、一部の薬では薬効が低下する可能性があります。また、腸溶性製剤の一部は薬の成分が胃内（酸性条件下）で分解されやすく、粉碎すると血中濃度が低下する可能性があります。

◆ 服薬アドヒアランスの低下

薬の中には苦味や酸味のある薬剤や、舌への刺激性のある薬剤があります。粉碎することで薬のコーティングが壊れ、その感覚がダイレクトに伝わり、アドヒアランスの低下につながる可能性があります。

◆ 粉碎時吸入の危険性

抗がん剤や免疫抑制薬、一部のホルモン薬など細胞毒性を有する薬剤は、調剤者が暴露する可能性があるため、注意が必要です。

◆ 副作用の増加

消化管粘膜を傷害する薬をを粉碎すると、消化管障害が生じやすくなります。また、徐放性製剤を粉碎すると、一時的に濃度が高まり、副作用のリスクが高まります。

粉碎時に注意すべき薬剤

以下のような特殊な剤形の薬剤は粉碎する際に特に注意が必要です。

1. 徐放性製剤

徐放性製剤は、薬物を徐々に放出するよう工夫がなされている製剤です。長く効くため、1日の服用回数を少なくしたり、血中濃度が安定しやすくなるという利点があります。粉碎することによって、その構造が壊れてしまうため、薬物を一気に放出してしまい、血中濃度が高くなる危険性があります。例えば、高血圧や狭心症に用いられるニフェジピンCR錠は徐放性製剤です。粉碎した場合、血圧が下がりすぎる可能性があります。

ニフェジピンCRのCRは Controlled Release (放出制御)、セバミットRのRはretard (遅延) ニフェジピンLのLは Long acting (長時間作用) が由来だよ



2. 腸溶性製剤

腸溶性製剤は、胃内では解けず、腸に入ってから解ける薬です。胃内で解けないよう工夫がなされており、粉碎することによってその構造が壊れてしまうため、様々な影響を及ぼします。例えば胃薬として用いられるプロトンポンプ阻害薬（ランソプラゾール、ラベプラゾール、オメプラゾールなど）は腸溶性製剤です。胃で溶け出すと、分解されて効果が下がってしまいます。また、バイアスピリンも腸溶性製剤です。バイアスピリンは胃で溶け出すと、消化器系の副作用が起こりやすくなります。



錠剤によっては割ることすらだめなものもあれば、軽く砕く程度なら問題ないものもあります。はじめての薬を粉碎するときや、困ったときには薬剤師に相談してください。

参考文献
1年目薬剤師の強化書 じほう
上手にしたい薬学ナレッジ101 じほう
各種添付文書、インタビューフォーム、商品ホームページ

薬局では、DI Newsで取り上げて欲しい内容を募集しております。何かございましたら、院内のメールにて薬局水野までご連絡ください。